

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の参加状況

第2学年	国語 143人	社会 143人	数学 143人
	理科 143人	英語 143人	

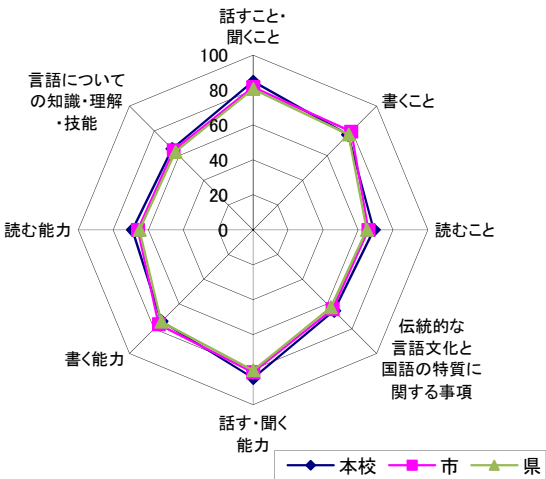
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.8	81.6	80.5
	書くこと	76.8	79.4	77.2
	読むこと	69.1	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.5	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	84.8	81.6	80.5
	書く能力	74.2	76.4	74.3
	読む能力	69.1	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	65.5	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

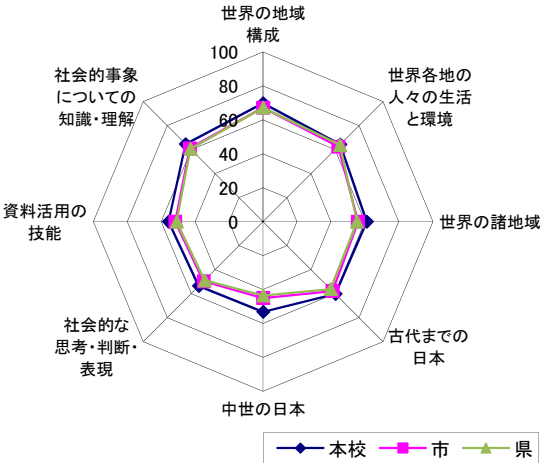
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことに関しては、本校は県より、4.3ポイント上回っており、市よりも3.2ポイント上回っている。設問別では、司会者の討論の進め方の工夫を理解したり質問を正確に聞き取り適切な発言を考えたりすることがよくできている。	・学習材をもとに「話すこと・聞くこと」の方法の確認をしたり、普段の生活の中でスピーチや発表の機会を増やしたりすることでさらに力をつけさせたい。
書くこと	●書くことに関しては、本校は県より、0.4ポイント下回っており、市よりも2.6ポイント下回っている。設問別では、課題作文において、指定字数で書いたり自分の立場を明確にして根拠を明確にして書いたりすることのポイントが県や市と比較して下回っている。	・作文については、課題に正対し、指定条件に合うように書くことや、根拠を示して意見を述べる練習を日常生活の中でも繰り返し行いながら文章表現ができるようにさせたい。
読むこと	○読むことに関しては、本校は県より、4.1ポイント上回っており、市よりも3.2ポイント上回っている。設問別では、説明文の理解において、文脈に即して語句の意味を的確にとらえることがよくできている。また、文学作品の理解においては、登場人物の様子をとらえたり表現の特徴をとらえたりすることがよくできている。	・文章の読み取りに関しては、概ね良好であると思われるので、今後も文章を丁寧に読み込ませていくことで、内容の理解や登場人物の気持ちを正確に把握できる力をつけていきたい。また、読書にも積極的に取り組ませることで、読解力をつけていく一助としたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関しては、本校は県より、2.7ポイント上回っており、市よりも1.3ポイント上回っている。設問別では、文法に関する知識のうち、品詞についての理解はよくできている。 ●文を単語に分けたり、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したりする設問や共通して入る部首を部首名で答える設問で市の正答率を下回っている。	・漢字の読み書きについては、小学校で学習した漢字の復習も含め、定期的に繰り返し練習させ、小テストや定期テストの中で定着を図っていく。また、文法事項・歴史的仮名遣い・部首等については、体系的に学習させて行く中で、基本的な問題練習を繰り返すことで知識の定着を図りたい。

宇都宮市立一条中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	69.9	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	64.3	62.6	63.9
	世界の諸地域	61.0	55.9	55.3
	古代までの日本	60.3	57.8	56.2
	中世の日本	53.2	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	53.6	49.7	48.9
	資料活用 の技能	55.7	51.8	51.0
	社会的な事象についての知識・理解	64.7	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

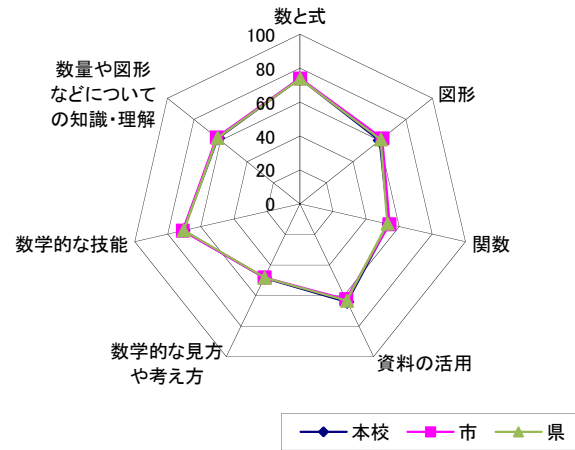
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○領域全体では、県の平均を2.8ポイント上回っている。また、設問別では、世界の海洋の分布・世界の地域区分・世界の国々の名称と位置の問題では、それぞれ県の平均を5.5ポイント・5.6ポイント・6.1ポイント上回っている。 ●緯度と経度をもとに地図を読み取る問題では、県の平均を3.8ポイント下回った。	・世界の国々の位置の問題に比べて、緯度と経度の知識をもとに地図を読み取る問題の正答率が低かった。緯度と経度の再確認をするとともに、世界地図に接する機会を増やし正しい読み取りができる力を高めていきたい。
世界各地の人々の生活と環境	○領域全体では、県の平均を0.4ポイント上回っている。また、設問別では、雨温図についての判断・説明と世界の大陸の気候の理解の問題では、それぞれ県の平均を1.1ポイント・3.5ポイント上回っている。 ●世界の宗教分布と世界の人々の住居の理解の問題では、県の平均をそれぞれ1.9ポイント・1.1ポイント下回った。	・世界各地の人々の衣・食・住について、自然環境と関連づけて理解させ、知識としての定着を図ってきたい。また、宗教分布の理解がやや不十分なので、それぞれの宗教の特色を復習するとともに、その分布図を作成し理解を深めていきたい。
世界の諸地域	○領域全体では、県の平均を5.7ポイント上回っている。また、設問別では、原油の生産量のグラフの読み取り・アジア州の産業についての資料の読み取りの問題では、それぞれ県の平均を8.5ポイント・3.7ポイント上回っている。また南アメリカ州の人口・民族の図の読み取り・南アメリカ州の熱帯雨林破壊の資料の読み取りの問題では、それぞれ県の平均を12.4ポイント・12.5ポイント上回っている。 ●アジア州の気候の特色の問題では、県の平均を4.8ポイント下回った。	・アジア州の気候の特色を考えさせる問題の正答率が低かった。季節風の風向の確認をさせるとともに、日本の気候と関連づけながらより深く考えさせていきたい。全体的に地図を利用した問題が苦手であり、今後の授業の中で、様々な地図を活用し分布や立地を読み取る授業を充実させていきたい。
古代までの日本	○領域全体では、県の平均を4.1ポイント上回っている。設問別では、弥生時代の特色の理解・古墳の広まりをもとに、図が表す内容を答える問題では、それぞれ県の平均を12.6ポイント・7ポイント上回っている。また、国風文化の資料の読み取り・藤原道長の理解の問題では、それぞれ県の平均を10.1ポイント・7.7ポイント上回っている。 ●年代の表し方の理解についての問題では、県の平均を7.6ポイント下回った。また、平安京の位置の理解の問題では、県の平均を3.6ポイント下回った。	・年表を利用した問題に苦手意識をもった生徒が多い。歴史的事象のうちどちらが先に起こった出来事か分からなくなってしまうことが多い。歴史の大きな流れを復習して確認していくとともに、節目となる年代などをうまく覚えられるように工夫していきたい。また、歴史地図の利用を心がけ、歴史的事象の起こった場所の確認を繰り返していきたい。
中世の日本	○領域全体では、県の平均を9.7ポイント上回っている。また、設問別では、御成敗式目の理解・鎌倉幕府のしくみの変化について、説明する問題では、それぞれ県の平均を17.9ポイント・11.9ポイント上回っている。	・歴史的な資料を読み取って説明するという問題の正答率が高かった。なぜそうなるのかなどを考える授業を通し、自分で考察したことを表現するという力が高まってきた。一方で歴史的事象の意味を考察することが苦手な生徒もいて、多面的・多角的に考え表現できるように授業内容を工夫していきたい。

宇都宮市立一条中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	73.9	74.1	73.8
	図形	60.0	62.0	60.9
	関数	53.6	54.1	52.9
	資料の活用	64.1	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	48.5	48.2	48.3
	数学的な技能	70.7	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	62.1	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

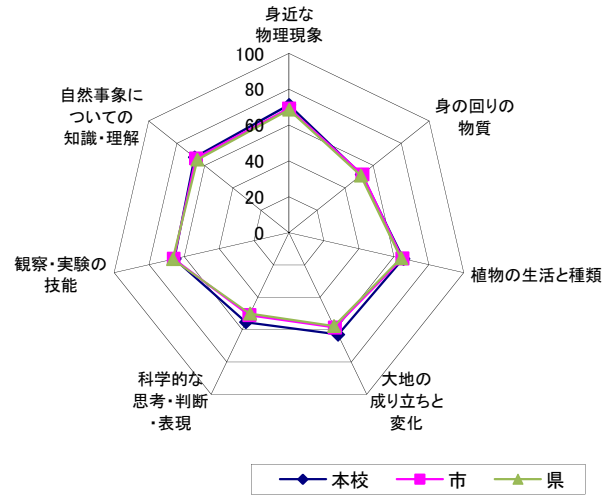
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式では、県の平均より0.1ポイント上回っているが、市の平均より0.2ポイント下回っている。 ●正負の数の四則混合、同類項をまとめる、1次方程式での移項、かっこをふくむ式でかっこをはずすときの符号の変化でミスが出やすい。	・四則混合算やかっこをふくむ式の計算で優先順を確認して、繰り返し計算練習を行う。 ・違いやすいところは、丁寧に反復学習をして定着を図る。 ・間違えたところは、なぜ間違えたのかに気づかせて、同じ間違いを繰り返さないように意識した学習に取り組ませる。
図形	●図形では、県の平均より0.9ポイント、市の平均より2.2ポイント下回っている。 ●図形の移動、位置関係、回転体、表面積、体積と操作を通して学ぶことが苦手である。	・補助教材を用いて授業を進める上で、実際に手にとって観察したり、シミュレーションを通して感覚を身につける機会を増やす。 ・間違いの原因を知り、同じ間違いを繰り返さないよう意識づける学習を行う。
関数	○関数では、県の平均より0.7ポイント上回っているが、市の平均より0.5ポイント下回っている。 ●比例・反比例の関係を式・表・グラフに表すことで、ともなって変わる量について着実に取り組むことが苦手である。	・ともなって変わる量について、関数領域時に振り返り学習と確認により、式・表・グラフを結びつけて考えられるようにする。 ・式・表・グラフから変化のようすがわかるように視覚でとらえる場面を多く設定する。
資料の活用	○資料の活用では、県の平均より0.7ポイント、市の平均より1.6ポイント上回っている。 ●代表値を初めとする言葉の定義や資料から必要な情報を適切に選択し、処理したり資料の傾向を読み取り、筋道を立てて説明することに慣れるようにする。	・度数分布表やヒストグラムの関係から代表値や相対度数の考え方など資料の傾向を捉え、日常生活と結びつく事象に即した問題を通して筋道を立てて説明できるようにする。

宇都宮市立一条中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	71.2	69.2	68.6
	身の回りの物質	51.9	52.2	51.1
	植物の生活と種類	65.3	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	63.1	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	55.4	51.1	50.1
	観察・実験の技能	65.5	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	67.3	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

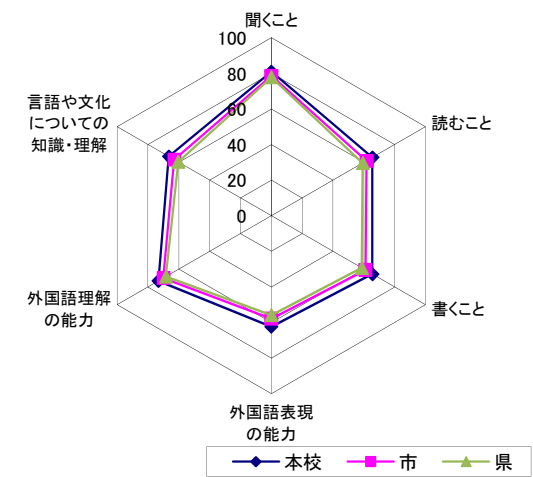
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○領域全体としては、県平均を2.6ポイント上回っている。設問別で、弦の長さや音の高低、振動数の関係を問う問題では県平均を8.5ポイント上回っている。 ●設問別で、光の反射について問う問題で、県平均を6.5ポイント下回っている。	・実際に実験をしているものでもあるので、その目的と考察が定着していないと考えられる。今後は、ワークシート等を工夫することにより、目的と考察にしっかりと目を向けさせるようにしていきたい。
身の回りの物質	○領域全体としては、県平均を0.8ポイント上回っている。設問別では、溶解度のグラフから温度を下げて塩化ナトリウムの結晶がほとんどできない理由を問う問題では県平均を14.7ポイント上回っている。 ●設問別で、気体の捕集法を選択する問題で県平均を8.1ポイント下回っている。また、混合物の加熱による温度変化の問題で、14.0ポイント下回っている。	・気体の捕集法は何度も実験で行っている。また、混合物の加熱の実験も行われている。そこで今後は、実験の際に、実験の目的やさまざまな操作について何のためにするのかははっきりさせてから実験させることにより、しっかりと目的意識をもたせたい。
植物の生活と種類	○領域全体としては、県平均を1.2ポイント上回っている。設問別で、植物の葉のつくりから、根と茎のつくりを問う問題で県平均を8.5ポイント上回っている。 ●設問別では、顕微鏡の操作手順を問う問題で、県平均を2.4ポイント下回っている。また、正答率が34.3%と低い。	・領域全体としては、基礎的な知識はもっていると考えられるので、今後は分類のような総合的に考える分野の指導の充実を図りたい。また、顕微鏡は、観察において多く使用される器具なので、今後は、使用する前には必ず操作手順を確認し、その定着を図っていききたい。
大地の成り立ちと変化	○領域全体としては、県平均を5.3ポイント上回っている。設問別では、ミョウバンの結晶のでき方から、斑状組織がどのようにできたかを推測し説明する問題で県平均を12.9ポイント上回っている。 ●設問別で、示相化石から堆積当時の環境を推定する問題で、県平均を2.6ポイント下回っている。また、正答率が33.6%と低い。	・地層の重なりなどをもとに過去の環境を考える問題で正答率が低いことから、地層がどこでどのようにできるかを再確認する必要がある。どのようなものがどのように堆積していくかをしっかり指導していきたい。

宇都宮市立一条中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	80.9	78.7	77.8
	読むこと	65.5	61.7	59.2
	書くこと	65.5	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	62.4	57.9	55.8
	外国語理解の能力	73.3	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	66.5	63.0	60.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○聞くことに関しては、本校は県より、3. 1ポイント上回っており、市よりも2. 2上回っている。また、設問別では曜日を聞き取ること、大きさや数、進行形の文に対してどう答えるか、所有しているのは誰かなどの質問に対して正確に応答することができる。 ●thank you.に対してどう答えるかについて、県より10.3ポイント、市より6.2ポイントも下回っている。	・課題が見られるものの、Oh thank you.に対し、You are welcome.と答えるという問題が、県より10.3ポイントも低いということは、教科書にその記述が見られなかったことも考えられる。今後は、会話練習を通してそうした基本的な表現方法についても授業で取り上げていきたい。
読むこと	○読むことに関して、本校は、県より6. 3、市よりは3. 8ポイント上回っている。また、設問別では、命令文、疑問視のwhen、進行形の疑問文など文法的な理解があって読めている部分と、まとまりのある英文読み取り、手紙文などの読み取りができています。 ●一般動詞の疑問文に対する理解、21. 7ポイントや、日数を長文の中から読み取る部分では28. 7ポイントと、正答率が非常に低い。基本的な情報をきちんと読み取る力をつけていきたい。	・全体的にみて、各設問について、ほぼ、県と市の正答率を上回っている。設問によっては、正答率の低いものもある。英文は、正確に読み取るという部分はなかなか難しい部分があるが、日頃から大意を取ることと共に、細かい部分の意味取りも。大切にしたい。単語の意味を正確に覚えること、単語の意味をそのまま基本的に訳をする際使うことなど、意識だけで訳さないなどということを授業で身につけさせたい。
書くこと	○書くことに関して、本校は、県より6. 8、市より4. 5ポイント上回っている。設問では、文の構造を理解し並べ替える問題、自分の好きな人について説明する英文など、テーマに沿って英作文をすることができる。 ●疑問詞を用いた疑問文や、相手を誘う英文など、場面や条件に応じた英作文のなかに、まだ基本の定着していないものもある。	・場面と英文をつなげられるよう、「英訳」をするのではなく、どんな場面で、どういう英文を使い伝えていかなければならないのかということを意識して、英作、会話文の作成など行って行きたい。 ・英語でコミュニケーションを取る際、まずは何を伝えるのか、それは英語ではどういえばいいのか、2つの段階を踏み、その場面ではどんな表現を使うのかという部分を指導していきたい。

宇都宮市立一条中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

〈学校や家庭での学習について〉

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」という問いに、「はい」と回答した割合は、それぞれ20.3%・26.6%と県・市の平均を上回っていて、家庭学習に比較的積極的に取り組んでいる生徒が多いことがわかる。

○「自分の意見や考えを発表することが得意」という問いに、「はい」と回答した割合は、県の平均を5ポイント以上上回っている。各教科の学習で、言語活動の充実を目指してきた効果がうかがえる。

○「1日あたりどれくらいの時間読書を読みますか」という問いに、「30分以上」と回答した割合は49%と県の平均を6ポイントほど上回っていて、朝の読書の時間の効果がうかがえる。

●「授業を集中して受けている」「友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という問いに、「はい」と回答した割合は、県・市の平均をそれぞれ数ポイント下回り、人の話を聞くことが苦手な生徒がやや多い。各教科で学習形態や学習内容を工夫し、集中の苦手な生徒の学習意欲を高める必要がある。

〈毎日の生活について〉

○「毎朝、自分で起きている」「毎日、朝食を食べている」「早寝早起きを心がけている」という問いに、「はい」と回答した割合は、それぞれ県の平均を数ポイントから10ポイント上回り、また、「食事の時、好き嫌いをしない」という問いに、「はい」と回答した割合も県の平均を上回っている。引き続き、健全な規則正しい生活の養成を図っていききたい。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」という問いに、「はい」と回答した割合は、県の平均を10.8ポイント上回り市の平均も6.2ポイント上回っている。引き続き、NIEの活動などを中心に時事問題に興味をもたせる学習に取り組んでいきたい。

○「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」という問いに、「はい」と回答した割合は、県の平均を17.3ポイント上回っている。今後もボランティア活動を重視する態度を培っていききたい。

● 携帯電話やスマートフォンを持っている生徒の割合は、県平均を16.1ポイント上回り、「1日にどれくらい携帯電話・スマートフォンで、電話やメールをしたり、インターネットのサイトを見たりしていますか」という問いに、「3時間以上」と回答した割合は、県の平均を4.9ポイント上回っている。携帯電話やスマートフォンの使い方については、家庭での約束事を決めて使用するよう、家庭での啓発を保護者会や学校からの各種の便りを通して、引き続き啓発していきたい。

● 「ふだん1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューター・携帯式のゲームも含む)を読みますか」という問いに、「4時間以上」と回答した割合は23.5%と県の平均を7.6ポイント上回っている。時間の使い方について、学級活動の時間等に十分指導するとともに、家庭でも協力を得られるように保護者会等で啓発していきたい。